発声練習用『もう夢は見ない』

もう夢は、
（全員）もう夢は見ない希望も、抱（いだ）かない。
最後に夢を見たのは高校生の頃だったその頃、
付き合っていた異性と二人で高い丘の上を歩いていた。
眼下に広がる美しい町並み。
とーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーくから聴こえてくるピアノの練習曲。
思わず鼻歌。
隣から笑い声。
風が木々を揺らし金木犀の甘い香りがしたから季節は秋だった。
見上げれば青空。
私はおもいっきり助走をつけるとその空の青に向かってジャンプした。
す、る、と、
（全員）すると体が軽くなって羽でも生えたみたいに体が浮きあがる。
空高く舞い上がる私は、
空を飛んでいた！
眼下に広がる美しい町並み。
その中には今まで一緒に歩いていたあの人もいて気がついた、
ああもうこれで二人は終わりになるんだね。
もう私は飛べるから。
もう私は飛べたから。
とーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーくから聴こえてくるピアノの練習曲。
そして私は振り返ることなく帰るべき雲の向こう、
ぐいぐいとスピードを上げていったそして、
そ、し、て、
目を覚ますと私は一つだけ、
はっきりとしたことと言えば異性との別れを決めたのだった決めたの、
だった。

けれどもう夢は、
（全員）もう夢は見ない希望も、抱（いだ）かない。
（二人）子供の頃はよく飛ぶ夢を見た私だけでなく、
（二人）友達もみんな空を飛ぶことが出来た。
（二人）仲の良かったあっちゃんだかかっちゃんだかさちゃんだか、
（二人）いつも一緒に空の散歩を楽しんだ。
（二人）白い雲の上に寝転び、
（二人）時にはゴロゴロ転がってはくっついたり離れたり。
（二人）時にはお弁当を広げて仲の良かったたっちゃんだかなっちゃんだか、
（二人）甘い卵焼きを交換したりした。
（二人）些細なことで喧嘩もしたけど空の上では、
（二人）空の上では仲なおりも一瞬。
今思えばもしもあの人が、
もしも一緒に飛ぶことが出来たなら未来は、
（二人）未来はきっと変わっていたのに未来は、
（二人）きっと違う色をしていたのに未来は、
きっと、きっと、きっと、きっと。

もう夢は、
（以下、全員で）もう夢は見ない希望も、抱（いだ）かない。
だって私はもう希望そのものだから空だって、
今は自由に飛ぶことが出来る失った、
手の代わりには大きな羽があるのだから私は、
鳥になったのだから。
もう人のかなしみも人のよろこびもどこかに去った。
私は空を飛んでいるもう一羽の美しい白い鳥と一瞬に空に羽ばたく南を、
目指して。
眼下に広がる美しい町並み私達は、
その町並みを愛した。
（以下、一人で）・・・たくさんの、
たくさんの子供が私を見つけてほら、
鳥だよ、
そんな声が聞こえる。
とーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーくから聴こえてくるピアノの練習曲。
懐かしのメロディ。
さよなら。
さよなら。
人間。
さ、
よ、
な、
ら・・・

基本一人一行ずつ。（二人）は二人で。（全員）は皆で。自分で勝手に
句読点を補わないで読む。伸ばす所、一音一音区切るところは、ハッキリと明瞭な音で。